

アウクスブルク研修 日記

田中 朝香

一日目に訪れたフッゲライの質素さと福祉の在り方に驚きました。たくさんの部屋の並ぶ街並みは美しくもきっちりといて無駄のなさを感じました。また一年間の賃料が1ユーロを切ったかなりの安値であることや当時世界で一番の金持と言われた、しかしたった一つの家が経営していた等、日本とは比べ物にならないほどの財力に改めて驚かされました。厳しい入所条件の中でもアウクスブルクの住民であること、という条件に驚きました。一つの独立都市を運営する市の住民としての誇りの高さとその重要性に気づかされました。また、キリスト教信者であること、という条件は生活の中でいかに宗教が重要視されているか、そしてユダヤ教の迫害の根深さを感じ取ることができたと思います。

午後に訪れた人形劇は強く心に残っています。「ブッペンキステ」は「人形箱」と言う意味だそうですが、展示を見ていると本当に箱に入ってそれぞれのワンシーンを表現しており、見ていてとても楽しかったです。精巧にできた人形たちが最初は少し怖かったのですが、持たせて頂き四苦八苦ししながら動かしているうちに可愛らしさが伝わってきました。アウクスブルクの子供たちはこれを見て育ち、大人向けの公演をされているそうなのでとても愛されているのだと思いました。また小道具や装置もとても工夫がされており子供から大人まで楽しめる理由がわかりました。

二日目には大聖堂を訪れることができ、

教会そのものの雰囲気味わうことができとてもよかったです。見た目が荘厳である以上に荘厳でありながら豪奢で、様々な様式が入り混じったものとなっていました。ヨーロッパでは建物の増築が基本だそうで、ロマネスク様式やゴシック様式がいきりまじったものとなっていました。生活の中でも比較的頻繁に訪れる教会で様々なものを見られるという事は教育や勉強に非常に役立つのではないかと思います。5人の預言者とダビデ王や聖母マリアの一生などの描かれたステンドグラスをみる事でよりキリスト教へ興味を持ちました。

市立図書館はオレンジ色を基調とした明るいもので、最初は驚きました。しかし明るい空間は落ち着いていて、本を読むのに快適だろうな、と思いました。その中で驚いたことが、音声の貸し出しが充実しているという事です。ドイツでは本の音声版の出版量は多く、普及しているそうです。目の不自由な人のためにも日本でも普及してほしい、と思いました。

オーバーアマガウで訪れたヴィース教会では二日目に訪れたアウクスブルク大聖堂とは反対の美しさを感じました。太陽光がたくさん入るように設計された大きな窓から落ちる日光は白い壁に反射して神秘的に輝いていました。壁に描かれた絵画と彫刻の融合の美しさには目を奪われ、思わず嘆息するものばかりでした。

四日目に訪れたギムナジウムはとても心に残る活動でした。学校についての説明の

後、生徒たちの授業に参加させていただくことになり、私は物理を選択しました。ちょうど初めての物理の授業だったらしく、磁石に付く素材を調べる実験を行う授業でした。女子4人のチームを最初見学していたのですが、いただいたプリントを読めず、ただただ理解しようと生徒の様子を見ていました。そしてプリントの書き方を聞いたり、これは何なのか、と聞いていると実験キットを私のためにプリントの順番にならべ、これはこれだよ、と一つずつ教えてくれたのです。その後私にも実験をさせてくれて、国際交流の本当の意味を知ったような気がしました。言葉が通じなくても通じるものはあるのだな、と思う交流でした。

ギムナジウムではアウクスブルクの教育課程についても詳しく教えていただくことができました。日本よりも早い段階で進路選択を迫られることを知り、世界の教育は全くちがうものなのだと驚きました。

モーツアルトハウスではレオポルト・モーツアルトの事だけでなくその時代背景も学ぶことができました。音声ガイドは音楽もたくさん盛り込まれており、とても楽しいものでした。途中、ハウスの中の練習場でバイオリンとピアノの練習が始まり、なんと見学させてもらいました。音楽を通じた国際交流でしたが、とても良い経験になったと思います。

ホストファミリーとの一日ではニュールンベルグに連れて行ってもらい、お祭りをみる事ができました。ちょうどオクトーバーフェスの時期だったのでニュールンベルグでもお祭りをやっていたそうです。民族衣装に身に包んだ人たちのパレードは楽器を演奏していたり馬にのっていたりと華やか

かでとても楽しいものでした。職人たちのお店の集まりではきれいなガラス細工やクリスマス飾りなどがたくさん並んでいてとても美しかったです。

今回市の使節団として訪れる事で、ただ観光としていくだけでは訪れなかつたであろう場所がたくさんありました。それらは私が知らなかつたたくさんの事を教えてくれ、文化を知る、という事は宗教や言語だけでなく、教育や市場など町や人を形作る全てのものを理解する必要があると思いました。それと同時に交流は文化の相互理解だけでなく、自分たちの知りたいという気持ちが大事だと感じさせられました。この経験を今後生かしていきたいと思います。

